Kadokawa Comics A

Fate/ゼロ 5
原作 虚淵玄（ニトロプラス）/TYPE-MOON

KCA3
角川書

セイバーは加勢に駆け付けたランサーと共に、
キャスターとの戦闘を続けていた。
しかし、キャスターが召喚する大量の怪魔を前に苦戦を強いられてしまう。
一方、アインツベルン城内では、切嗣とケイネスの戦いが始まった。
礼装・月霊髄液（ヴードゥー・ハイドラクス）を駆使するケイネスに対し、
切嗣は不敵な笑みをたたえ銃を抜き放つのだった。
戦場が混乱を極める中、
森には不吉を運ぶ招かれざる訪問者の姿が……。
鮮血が舞い、絶望に歪む運命の第五巻!!

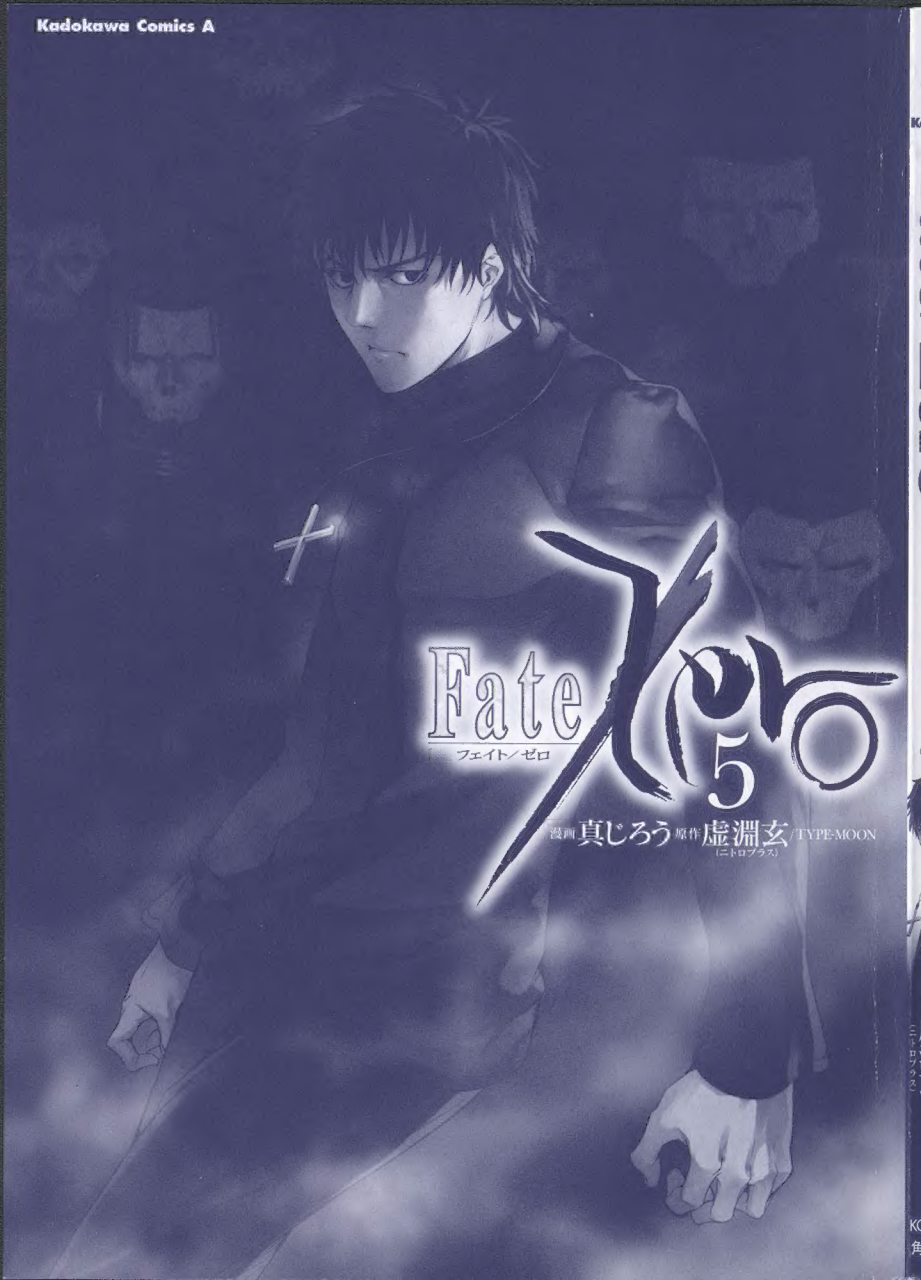
9784041205631

1920979005600

ISBN978-4-04-120563-1
C0979 ¥560E

定価:本体560円(税別)
発行:角川書店

Kadokawa Comics A



……たわけ…
…たわけたわけ！
たわけたわけ
たわけェッ!!

第 21 話

私の祈りが！
私の聖杯がその女性を
蘇らせたのだッ！
彼女は私のものだ……
肉の一片から
血の一滴まで！
その魂に至るまで
私のものだぁッ!!

第 21 話
Fate
フェイト／ゼロ
ゼロ
漫画 真じろう
原作 虚淵玄 (ニトロプラス) /TYPE-MOON

第 21 話
001

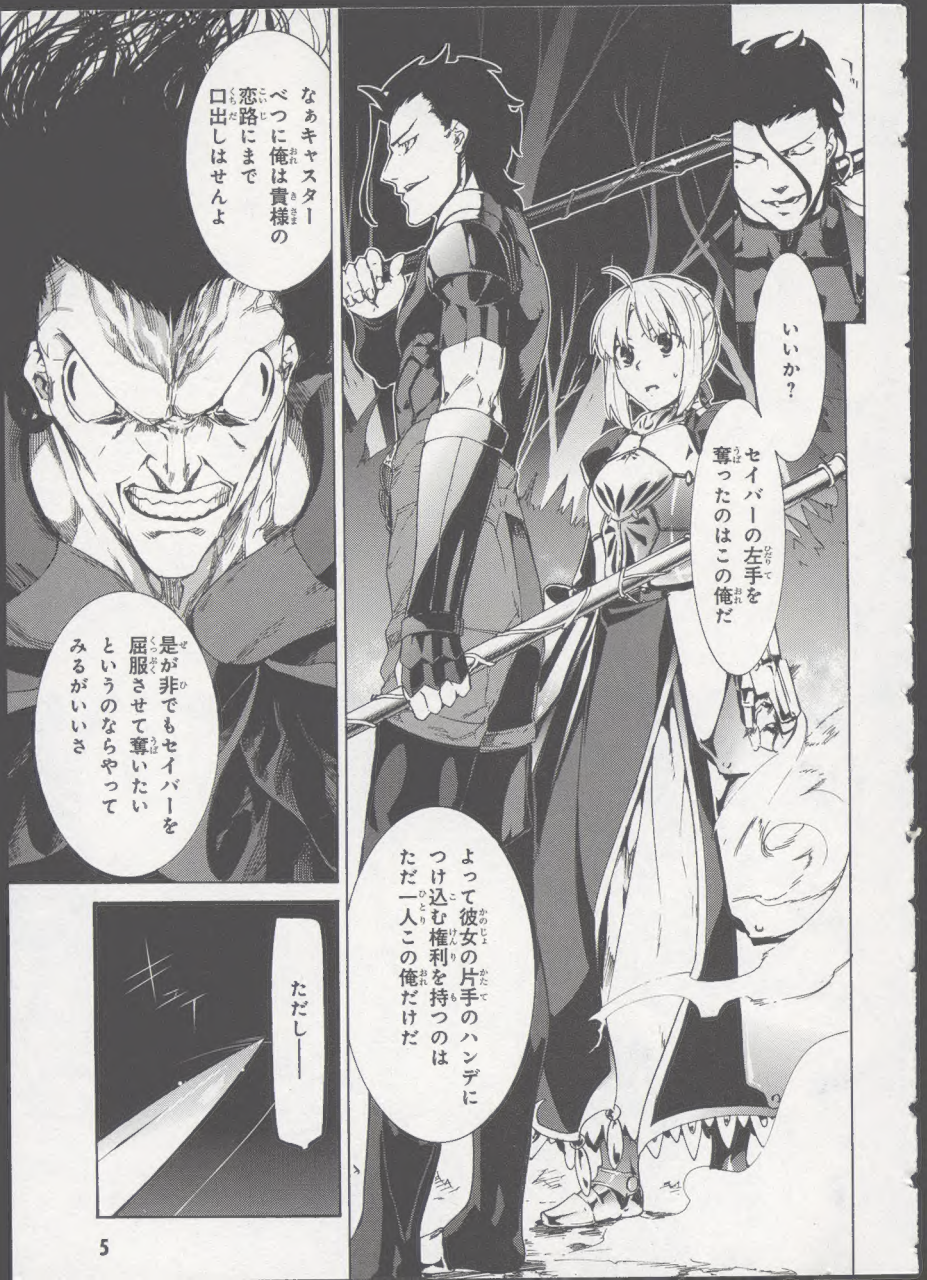
第 22 話
033

第 23 話
069

第 24 話
091

第 25 話
123

番 外 編
◆Master's daily life◆
155

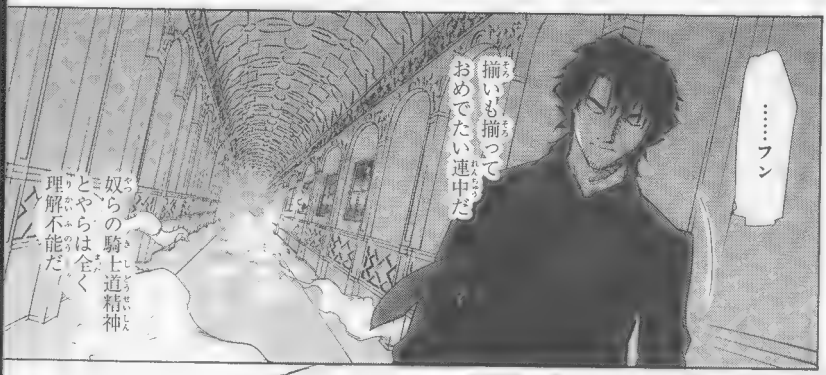

いいか？
セイバーの左手を奪ったのはこの俺だ
よって彼女の片手のハンデにつけ込む権利を持つのはただ一人この俺だけだ
ただし――
なぁキャスター べつに俺は貴様の恋路にまで口出しはせんよ
是が非でもセイバーを屈服させて奪いたいというのならやってみるがいいさ

このディルムッドを
差し置いて〝片腕のみの
セイバー〟を討ち果たす
ことだけは断じて許さぬ
ランサー
貴方は……
勘違い
するなよ
セイバー
今日の俺がマスターに
仰せつかったのは
キャスターを倒せ
という命令のみだ
おまえをどうこう
しろという指示は
受けていない
ならばここは共闘が
最善と判断するが
どうだ？

放って置いても
死ぬだろうが――
ドドド

チッ！
フン なるほどな
セイバーのマスターよ
今ここで貴様を串刺しにするのがどれだけ容易いか
判っていような？
……
ランサーはセイバーが引き留めているものとばかり思っていたが…
アレが敗れて消滅したのならば僕にもわかるはず
だが間違いなくまだ健在だ
ならば考えられるのは――

俺のマスターは
殺させない
セイバーの
マスターも
殺さない
俺も彼女も
そのような形での
決着は望まない
ゆめ忘れるな
今この場で貴様が
生き長らえるのは
騎士王の高潔さ故
であることを



全くもって
度し難い愚かしさだな

やはり自分のサークルは
もっと慎重に選ぶべきだった

—130:32:15
女よ　ひとつ問う
おまえたち二人は
衛宮切嗣を護るために
私に挑みかかって
きたようだが——
それは誰の意思だ？
……
いっ……！

重ねて問うぞ 女
おまえたちは 誰の意思で戦った？
カハッ！
この女の 軽率すぎる行動は 断じてマスターの ものではない
この一人はただの駒――
やはり衛宮切嗣こそが セイバーのマスターだ
しかしこの アインツベルンの ホムンクルスは 「器の守り手」の役を 負った人形に違いない
ならばコレは 聖杯戦争の 終盤における 鍵となる存在
そんな駒を戦いの 前線で危険に晒す などという策は 考えられない

……
——ッ！

決してここを通さない
命に代えてもオマエをここで食い止める
この二人は独断で私に挑んできたというのか!?

なおも貴様が
退かぬとあらば
これより先は我が槍が
セイバーの〝左手〟に
成り代わる
私一人に気を取られている
キャスターに不意打ちを
仕掛けるという選択肢も
あっただろうに
断っておくがランサー
私なら左手一本で
あの雑魚どもを
一〇〇は潰すぞ？
フン
その程度なら造作もない
今日のおまえは左利きに
なったつもりで
いるがいいさ

我が主よ
キャスター
それとライダー
そのマスターも
柳洞寺の森から
敗走しました
程なくセイバーが
駆けつけまする
まさば危険です
……
今から退去したところで
無事に逃げおおせるか……
足止めぐらいには
なるか

ヘ……ヘ……
ヘ……ヘ……
ゴボ。
ヒュ〃

あの憎悪
あの殺意は本物だった
あの一人は
衛宮切嗣という
個人を喪ろうと
したのだ
衛宮切嗣の思惑を
離れてなおあの男を
護ろうという意志
望みのない戦いに
足が非でも
勝とうとした執念
道理を無視した愚行に
ヒトを走らせる概念――
それは信念だ
衛宮切嗣という人物に
信念をもって協賛して
いるとするならば
二人の行動にも筋が通る
しかし――
ならば衛宮切嗣
という人物は
他者に肯定され
理解され得る存在
だというのか？
ギッ
有り得ない……
有っては
ならない……！

……イリスフィール
しっかりしてください！
アイリスフィール！
セイ…バー……？
駄目だ！
意識をしっかり保って！

今すぐ切嗣を呼んできます
それまで頑張るのです！
ヒュー
……綺礼は……
ここにいた敵はどこに？
逃げられました
あと少し早く私が駆けつけていればこんなことには…！
……舞弥…さんは……
彼女も深手を負っていますが命に別状はありません
それよりも貴女です！
この出血量では——
出血が止まっている？

傷口が寒がって……
ー

！
驚かせちゃって御免なさいね
アイリスフィール これは一体…
もう大丈夫 心配いらないわ
他人に治癒魔術をかけるより自分の傷を治す方が簡単なのよ
……そもそも私人間とは身体の造りが違うから
はぁ……

本当はあなたのおかげなのよ
セイバー……
「全て遠き理想郷」
――持ち主の傷を癒し
老化を停滞させる
宝剣エクスカリバーの鞘

それは君が持っていてくれ
でもマスターは切嗣なんだから貴方が持つべきじゃないの？
君を前線に立たせるわけだからねその保険だよ
どのみち本来の所有者であるセイバーが傍にいて魔力を供給しない限り鞘の効力は発揮されない
別行動をする僕が持っている意味はないさ
でもセイバーにこのことは話さないようにね

セイバーに対して
使うようで良い気は
しないけど……
でも本当にすごい力……
セイバーに
触れられただけで
傷が回復して
体力や魔力回路まで
もう万全の状態に
まさに宝具と呼ぶに
相応しい効果だわ

青峰綺礼は魔術一つ使わず
生身の肉体だけで私たちを
赤子の手を捻るように……
『痛覚遮断』

あの男は切嗣を狙って
必ずまたやってくる
次こそ
きっと勝とう
二人で彼を
守り抜こうね……

……さぬ…
許さぬぞォ…！
思い上がるなよ
匹夫めがァ!!

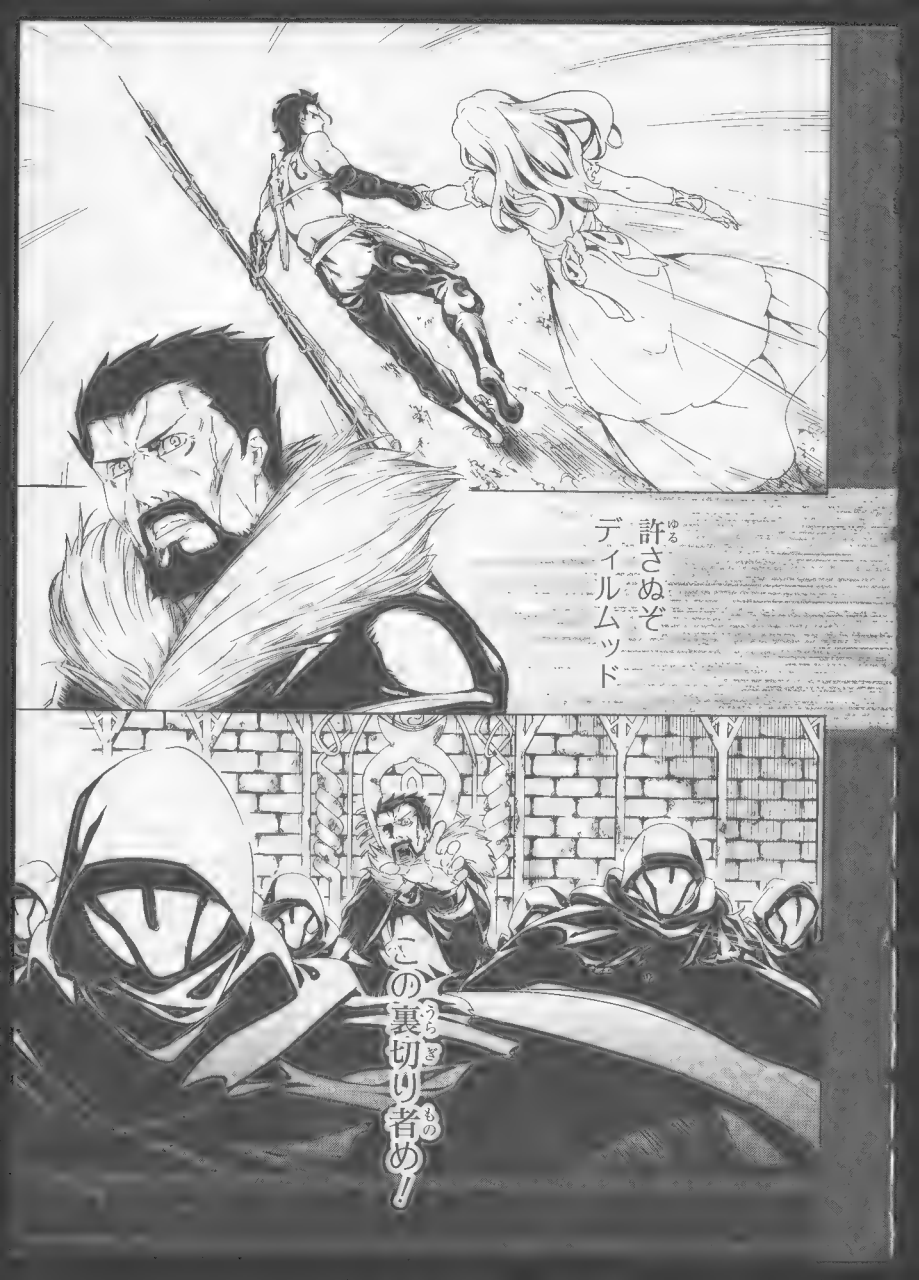
第25話
フィオナ騎士団団長
フィン・マックールと――
我が娘グラニアとの婚約がめでたく相成った！
誉れ高き勇士たちよ
今宵はともに祝おう！

偉大なる英雄を首領に仰ぎ
その一命に剣と槍と命を託す
これこそが騎士たる誉れ
その道に憧れて
その道を貫いて
いつか我が身は
誇り高く戦場に
果てるものと――
そう信じて
疑わなかった

我が愛と
引き替えに
貴男は聖誓を
負うのです
愛しき人よ
どうかこの忌まわしい
婚姻を破棄させて
私を連れて
お逃げください
地の果ての
そのまた
彼方まで！

偉大なる英雄を首領に仰ぎ
その一命に剣と槍と命を託す
これこそが騎士たる誉れ
その道に憧れて
その道を貫いて
いつか我が身は
誇り高く戦場に
果てるものと
そう信じて
疑わなかった

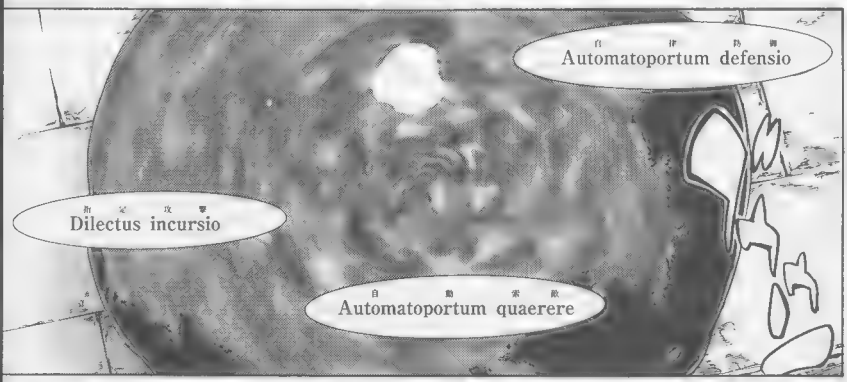
我が愛と
引き替えに
貴男は聖誓を
負うのです
愛しき人よ
どうかこの忌まわしい
婚姻を破棄させて
私を連れて
お逃げください
地の果ての
そのまた
彼方まで！


許さぬぞ
ディルムッド
この裏切り者め！

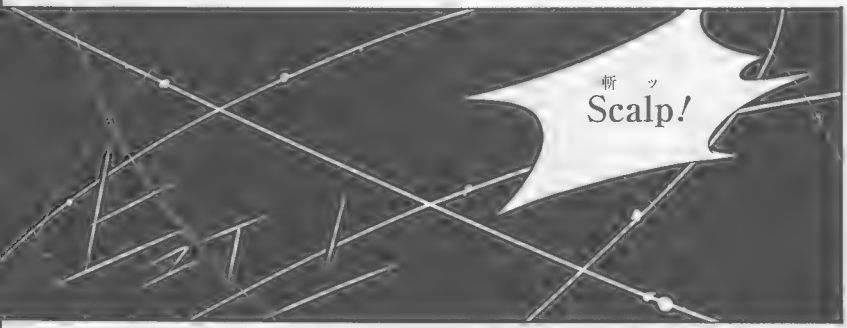
……今の夢は…
まぎれもなく
『ディルムッドと
グラニアの物語』
の一場面…
だが私は……
ここは現在拠点と
している廃工場…
私は何故ここにいる？

……？
なっ……！
身体が…動かない……
…身体の感覚がない!?
気がついたようね
！

ソラウ!?
これは一体……
わ 私はなぜここにいる!?
ランサーが運んできてくれたのよ
貴方の窮地を救ってね
何があったのかまったく憶えていないの？
私は……
アインツベルンの城であの鼠と戦って…
だが奴の銃弾は確かに防御したはず


自律防御
Automatoportum defensio
斬撃攻撃
Dilectus incursio
自動索敵
Automatoportum quaerere

—130:45:08


斬ッ
Scalp!

全身の魔術回路が
暴走した形跡があるわ
内臓はほぼ壊滅
筋肉と神経も
身体中くまなく
破損していたの
即死しなかった
のは奇跡ね
……
とりあえず
間に合ったのは
臓器の再生までよ
もう神経の方は
どうにも
ならなかったわ
このまま時間をかけて
治癒をかけても
立って歩けるまでの
快復は望めない
でしょうね
それに――

ケイネス
貴方の魔術回路は
壊滅よ
もう二度と魔術の
行使はできない
私は……
私……は……

泣かないでケイネス
諦めるのはまだ早いわ
聖杯戦争はまだ
続いている
貴方の策の
成果よ
魔力の供給源である
私がいる限り
ランサーとの契約も
継続できる
私たちはまだ敗北
したわけじゃない

聖杯が万能の願望機だというのなら貴方の身体を完治させることも充分に可能な筈でしょう？

勝てばいいのよ

勝ち残って聖杯を手にすれば何もかも元通りになるわ

だから――ね？

……ソラウ？

ケイネス……

この令呪を私に譲って頂戴

――ア

私がマスターとしてランサーを受け継ぐわ

貴方に聖杯をもたらすために

だ――……
駄目だッ！
それは違う
あの英霊は
そんな殊勝な
人物ではない
……ソラウ
ランサーが私でなく
君に忠誠を
誓うと思うか？
彼だって聖杯を
求める心は
私たちと一緒よ
たとえマスターが
交代することになっても
目的のために押し忍んで
受け入れるわよ
確かに
戦術次第
では……
しかし――
私を信じられないの？
魔術刻印こそないけれど
これでもソフィアリ家の
魔術師の端くれよ
婚約者である私が
あなたに代わって
戦うことに
不思議はないわ

サーヴァントは
自らが聖杯に託す願望を
持ち合わせているからこそ
聖杯に招かれたのだ
だがあの男は言った——
私は聖杯など
求めません
ただ今生の主たる
召喚者に忠誠を尽くし
騎士としての名誉を
全うすること
それだけが
我が望み
願望機は
マスター一人に
お譲りいたす
名のある英霊たる者が
誇りを曲げて
人間風情の使い魔にまで
身を窶すなどありえない
とても信用のおける
人間ではないのだ

そもそも生前の逸話にしてからがそうだ
あの男は君主の許嫁を略奪して逃亡した背信の臣ではなかったか…
令呪は……渡せない
令呪は魔術回路とは別系統の魔術だ
今の私でも行使できる
私は……今でもまだランサーのマスターだ！
ケイネス判ってないのね
私たちはどうあっても勝ち抜かなきゃならないってことに
ポキ

ねぇケイネス
私の霊媒治療術だと
根付いた令呪を強引に
引き抜くのは無理なの

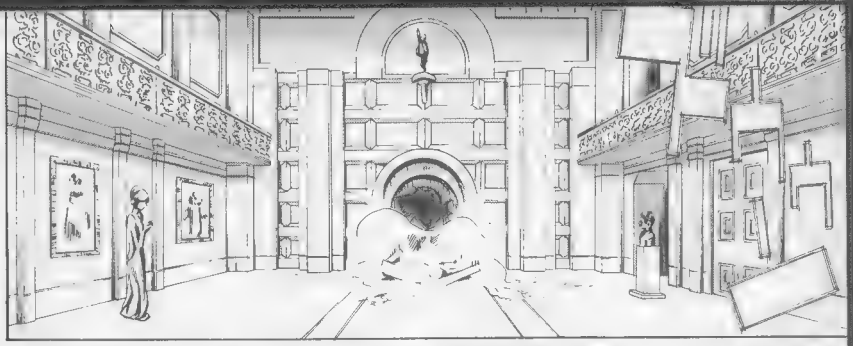
でも私に
同意してくれれば
無抵抗にコレを
摘出できるのよ

でなければ
この右腕を
切り落とさないと
いけないわ

ランサー
出てきてください
話があります
――こちらに
外の様子に
異状は
ありますか？

今のところは安全です
希にキャスターから
はぐれたらしい怪魔の
気配もありますが
ここを嗅ぎつけて
襲ってくる素振りはない
ケイネス殿の結界敷設は
まだ綻んではおりません
してソラウ様
ケイネス殿の
容態は？
芳しくありません
一通りの処置は
施したけれど……
腕はリハビリ次第でも
脚はもう駄目かもしれない
自分がもっと聡く
状況を見極めて
いれば……
主をみすみす死地に
赴かせることなど
なかったものを……
ケイネスの
自業自得です
彼にこの聖杯戦争は
荷が勝ちすぎていた
ということでしょう
彼は貴方の
マスターには
相応しくないわ
ディルムッド

ケイネスは戦いを放棄し
マスターの権限を
私に譲りました
ランサー
今宵から貴方は
私のサーヴァントです
……
私はケイネス殿に
騎士としての忠誠を
誓った身です
ソラウ様……
その申し出は
承諾できない



この程度の術式ならば
城の備えとて高が知れている
アインツベルンを仕留めたら
この城を乗っ取って
新たな拠点とするのもいい…

そんな!?
もともと貴方は
私の魔力によって
現界している
サーヴァントでしょう?
そして今は令呪
までもが私の手にある
今度こそ正真正銘
貴方の契約者は
私一人であるはずよ!
魔力を頂くのも
令呪の縛りもこれとは
何の関わりもない話です
私はサーヴァントで
あるより以前に
一人の騎士なのです
忠義を尽くす
君主はただ一人
ソラウ様
どうかご容赦を
……私が
マスターでは
不足ですか?
ディルムッド
それとこれとは
話が違うと――
私の目を
見て話して!

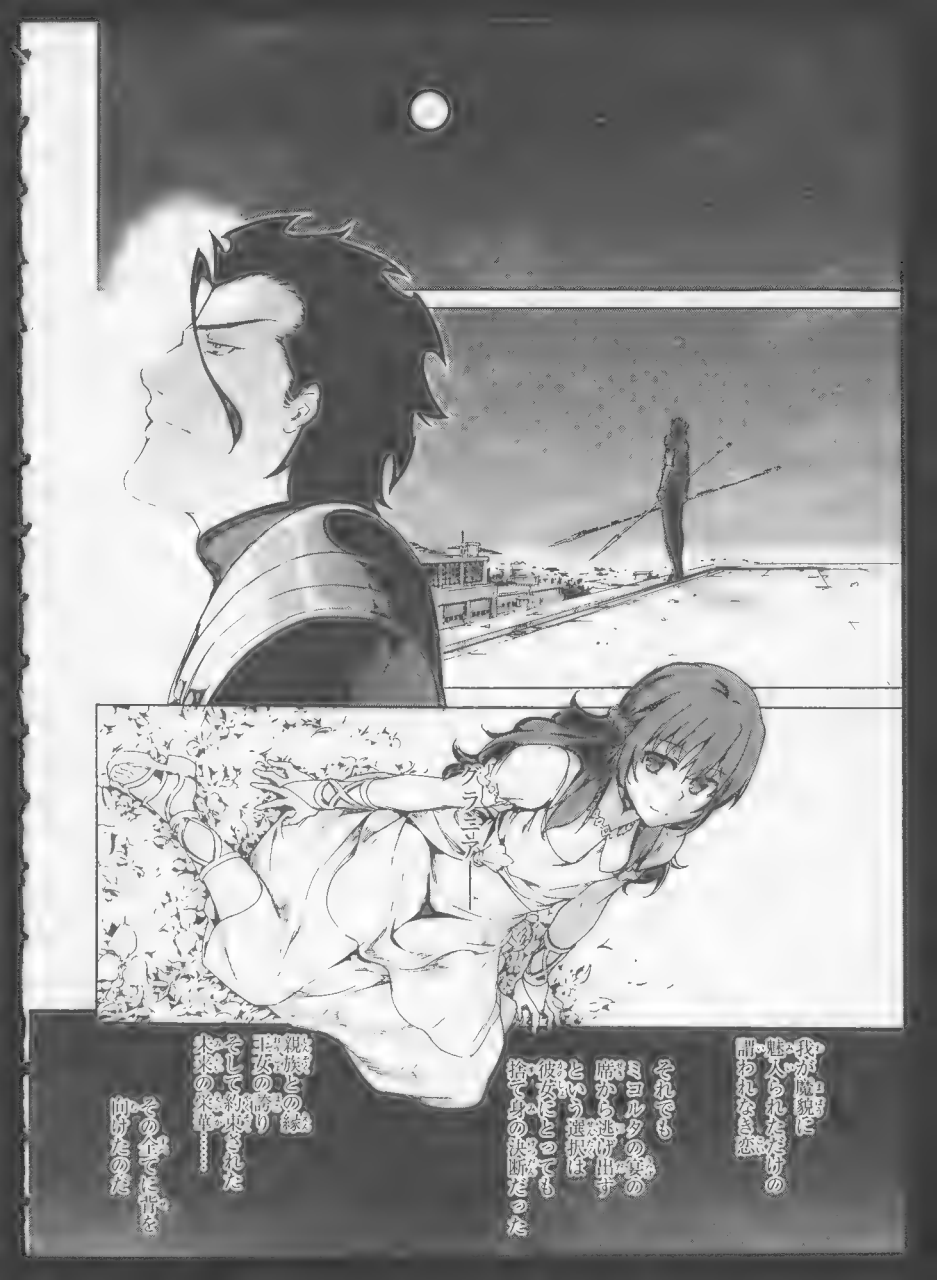
……ランサー
私と戦って
私を護って
私を支えて！
私と共に聖杯を獲って！
できません
ケイネス殿が
戦いを放棄する
というのなら
私も聖杯など
求めはしない

……
――ならば…
あくまでケイネスの
騎士だというのなら
尚のこと貴方は聖杯を
勝ち取らねばなりません
彼の容態はさっき
話した通りです
あの身体を癒すには
奇跡の助けが必要だわ
それが叶うのは
聖杯だけでしょう
彼の負傷に責任を
感じるなら――
彼の威信を
取り戻すためには
貴方は主に聖杯を
捧げなければ
……ソラウ様
ギッ
あなたは
ケイネス殿の
伴侶として
ただケイネス殿の
ためだけに聖杯を
求めると――
そう仰有るのですね？

リリリ
そ……
そう…
知ってください
ますか？
他意はないと

ッ……
――誓います
私はケイネス・エルメロイの妻として夫に聖杯を捧げます
コクン
そうだ
嘘でも構わない

今この男との絆を
保っていられるのなら
たとえどんな形で
あろうとも構わない
初めて感じるこの胸の高鳴り
政略結婚の道具――その人生に
疑問を感じることの無かった
私の前に貴方は現れた
それがたとえ奇跡によって
もたらされた相手であっても
私の想いは変わらない
この想いを遂げるためなら
私はどんな卑劣な嘘でも
ついてみせる
だれにもそれを
咎めさせはしない
そう――決して邪魔者は許さない



我が魔貌に魅入られただけの
訳わけもなき恋

それでもミコルタの宴の席から逃げ出すという選択は彼女にとっても捨て身の決断だった

親族との縁
王妃の誇り
そして約束された未来の栄華……

その全てに背を向けたのだ

だが主君フィンに対する
背徳に悩む一方
誇りを試す聖誉の
重みにただ屈した
というだけではない
未練もあった
葛藤もあった
最後まで自分の想いを
貫いたグラニアにも
敬服を懐いていた
そしてそんな彼女を
最後には愛する
ようになった
しかし――

忠義とは？
愛とは？

アーチボルト家九代目当主
ケイネス・エルメロイが
ここに推参仕る
アインツベルンの魔術師よ！
求める聖杯に命と誇りを賭して
いざ尋常に立ち合うがいい！
……
フンッ
ゴゴゴゴゴ

聞いてくれ
グラニア！
フィンがとうとう
私たちの仲を
認めてくれたぞ！

グラニアを
恨んではいない
過ぎし日の自分の
末路にも後悔は無い
騎士として槍を執る
二度目の人生を得た今
私の望みは
『騎士としての本懐――
即ち曇り無き信義とともに
主に勝利を捧げる名誉を得る』
――ただそれだけ
なのにこの魔貌はまたも
新たな君主との間に楔を
打ち込もうとしている
もし彼女が二人目の
グラニアとなって
縋り付いてくるのなら
そのとき自分は
女の想いを振り払うことが
できるのだろうか？
第25話　END

番外編◆Master's daily life◆
ヒィィ
ヒィィ
……

愉悦
!!

綺礼よ
己の鍛錬の成果を
発揮したくて体が
疼いておるのじゃな
我が息子として
誇りに想うぞ——

フッ
優雅
ヤダわたし脱いでる…
離婚しようかしら…

とうとう
完成した…
COOOOOOOOOOL!!
旦那！
オレやったよ！
くうぅぅるですリュウノスケェ！

月霊髄液
ヴァールメン・ハイドラグラム
クロス・フォーム!?
天才

No Zo Ki
ニョロ ニョロ
ピク
うっ
ダッ
ニャー
ニャー
キュー
キュー
ちー
ピュー
ヒャー
ヒャー
ヒャ

ヴォールメン・ハイドラグラム
月霊髄液

イリヤたーん……!!
ボロ
キスとか無理……
……

征服!!
おわ!?

お前いきなり何服破ってるんだよ!?
キリッ
ムン？何故って貴様の裸を晒すわけにはいかんだろう 性別的に
じゃから余が代わりにだな…
ゴゴゴゴゴゴ

はぁ？お前何言ってんだ？
良いから服を着ろ
ム…？余は一体何を…？
外伝編◆Master's daily life◆END

Staff/ 綾野貴弘、夏目りく

5

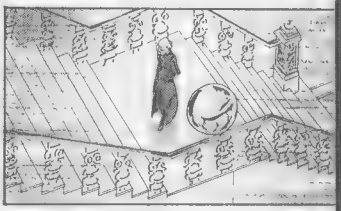
Fate/Zero

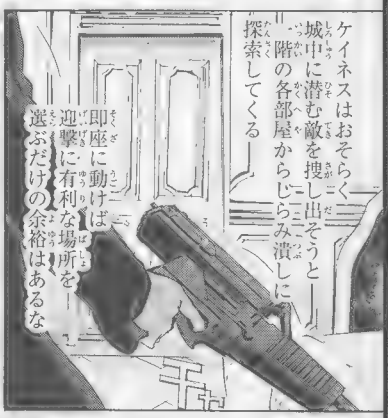
Comic : SHINJIRO
Original Work : GEN UROBUCHI(Nitroplus)
/TYPE-MOON

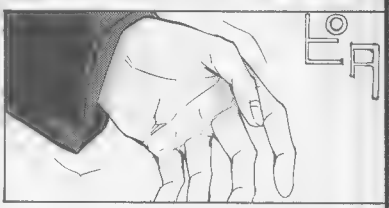
In the battleground, there is no place for hope.
What lies there is just cold despair and a sin called victory,
built on the pain of the defeated.
The world as is, the human nature as always,
it is impossible to eliminate the battles.
In the end, killing is necessary evil-and if so,
it is best to end them in the best efficiency
and at the least cost,
least time.
Call it not foul nor nasty.
Justice cannot save the world. It is useless.

今のは魔術的な攻撃ではない
単純な…
ゴゴゴゴ
なるほど…時化の不得手なトラブルはやはりアインツベルンの仕業だったか
ああも下劣で品性を欠く手段に訴えるとは…
そこまで堕ちたかアインツベルン
おそらくは単純の罠を張り入れて使役しているのだろうが
それだけでも度し難い卑劣
卑劣の場に彼らは資格なき者を招き入れた
罰して許容できることではない
――宜しい
ならばこれは決闘ではなく誅伐だ

呪操水銀による自律防御——
まさかクレイモア地雷の爆風にまで先んじる反応速度とは…
とても銃器が通用する望みはない
天才と呼ばれるだけのことはある、




ケイネスはおそらく城中に潜む敵を捜し出そうと——一階の各部屋からじらみ潰しに探索してくる——
即座に動けば迎撃に有利な場所を選ぶだけの余裕はあるな

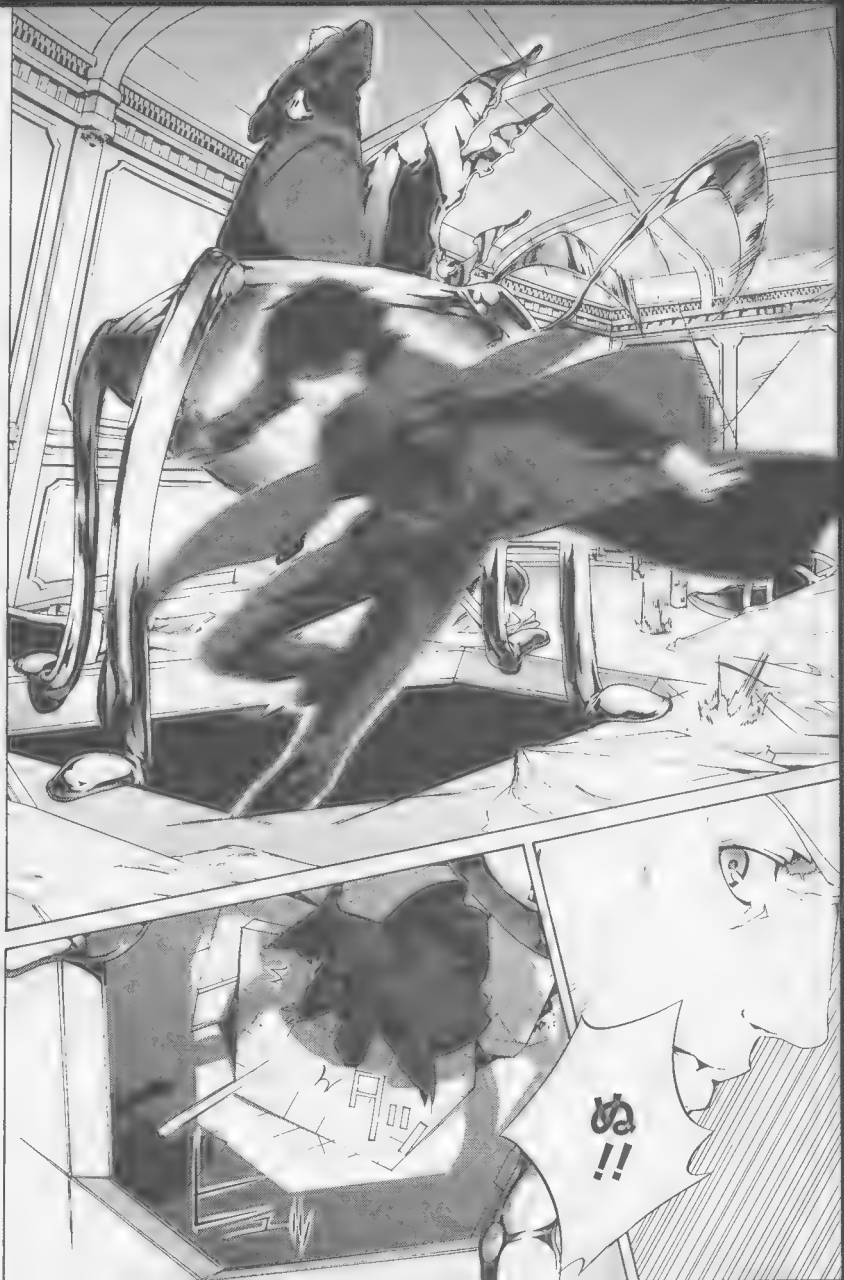


ツゥ…

……なるほど
『自動索敵』か

見つけたぞ ネズミめが……

瞬右時制御
Time alter——
二倍速
double accel!!
斬
Scalp!


ぬ
!!

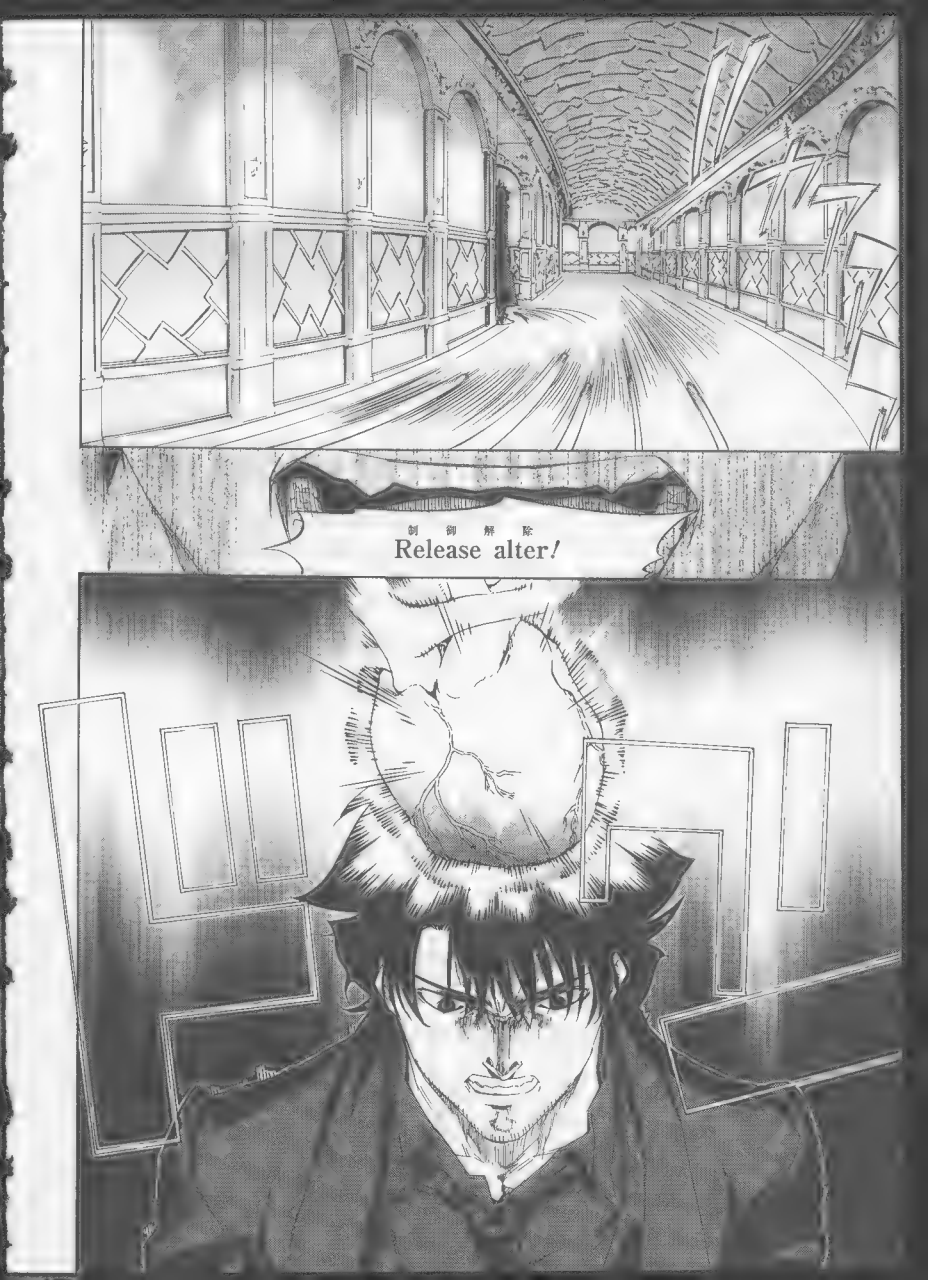
なるほど 少しは魔術の心得もあるわけか
魔術師の面汚しめが…死んで身の程を弁えるのだな
追跡 林殺
Ire:sanctio!!
切嗣の魔術は…特定の空間の『時間操作』
固有結界の一種で本来は大魔術の類だけど
時間の改竄に比べれば
時間の調整はさほど極端に困難な術ではない
問題は結界の規模と干渉する時間の範囲

切嗣は固有結界を
自身の体内に設定することで
時間操作の術式を戦術的に
有効に活用できるようにしている
その最少規模の結界において
わずか数秒間の時間を調整するのが
衛宮切嗣の我流魔術――
『固有時制御』
神経の反応伝達速度
筋肉の応答速度
体内の活動全てを高速化
させることができる
難点は肉体にかかる極度の負荷……
結界内外の時間流に
生じた誤差を正すために
結界の解除時に切嗣の肉体
そのものを元の時間流に
合わせようと圧し曲げる
肉体を損壊させずに
行使できるのは
せいぜい倍速
そこから先はまさに
血肉を削りながらの
綱渡りになる……
あのケイネスが
駆使する魔術に対抗
できるのかしら……

焚きつける必要さえ…

もっとも有り得るのは
触覚だろう
だがサロンで
捕捉されたとき
水銀は触れもしない
うちからその位置を
特定した
もし水銀の触覚が
極度に過敏であれば
空気振動を判別して
聴覚の役割も果たせる
固有時制御
Time alter——
重停滞
triple stagnate

生体活動を三分の一のスピードに減速


制御解除
Release alter!

ズキン
ギチ
ギチ
ズキン!
ズキン

索敵の網の目を
逃れていただと…！

水銀の運動速度の秘訣はおそらく圧力
――馬鹿めが無駄な足掻きだ！
球状の塊になっている状態からなら銃弾に先んじるほどのスピードで膜状に拡散させることも可能だろう
だがいったん膜状に拡がってしまった液体に瞬間変形を避けるだけの圧力をかけるのは不可能

30-06スプリングフィールド弾の
弾丸初速はキャレコの
九ミリ拳銃弾の一・五倍以上
破壊力は七倍相当
弾幕防御のために
薄膜化した水銀には
耐えられない！

ぐあッ！
ボロ
おっ……
おのれえェ！
屑の分際で！
斬ッ
Scalp!!

伸びた末端には
圧力がない
この斬撃鞭を振るう
エネルギーは体積のある
基部にしかない
そんな単調な攻撃ならば
どれほど高速であろうと
軌道は読める
!?

ケイネスが即座に追ってくるならば良し

あるいは銃創の手当てを優先するだけの思慮を残しているようならばまだ挑発し足りないということだ

防護膜を貫通し得た一撃は今のが最初で最後だろう

今後は全攻撃に対してスプリングフィールド弾を防ぎうる防壁を用意してくる

ケイネスはありったけの魔力を動員して水銀の防御を強化するはずだ

そうであってくれなければ困る

第 21 話 ／ E N D

第22話

セイバーが
隣にいない
だけで
こんなに
不安を感じる
なんて…

舞弥さんが護衛として
心許ないわけではないけれど
この奇妙な心細さは何…？

森に入ってから一度も
言葉を交わしていない

っ……

私の知らない切嗣
舞弥さんだけが知ってる切嗣
聞きたいことはいくらでもあるのに答えを聞くのが怖い――
――やっぱりこの女は苦手だ――
――ッ!?

どうかしましたか？マダム
……また新手の侵入者よ
このまま進めば鉢合わせするわ
それでは迂回しましょう
ここからなら北側に回り込めば安全です
……やって来るのは…
――言峰綺礼よ
……ッ！

そっか……
舞弥さん
あなたが切嗣から受けた
命令は私の安全を
確保することよね
はい
でも――
でも何？
『あの男だけは絶対に
切嗣の所へ行かせる
わけにはいかない』
と思うわけ？
マダム
貴女は……
偶然ね
私もまったく
もって同意見よ
綺礼はここで
私たち二人で
食い止める
いいわね？
舞弥さん

……
申し訳ありませんが
お覚悟を願います
マダム
ええ
私の心配は
しなくていいわ
あなたはあなたの
務めを果たして
切嗣からの
命令ではなく
あなた自身が
必要と思って
いることを
私が畏れていたのは
舞弥さんも切嗣を
想っているという事実を
知ることだったのね――
フフ
――何か？
切嗣のためなら
生命を賭する女が
自分の他にもいる――
人間の心って
不思議よね
今はその事実が
頼もしくて仕方ない

現状アインツベルンの取り得る最上の策は迎撃の備えを万全にして自陣に立て籠もり敵の襲来を待ち構えること

ならば衛宮切嗣の居場所はこのアインツベルンの森以外にあるまい

日論見通り城の反対側で戦いが始まった

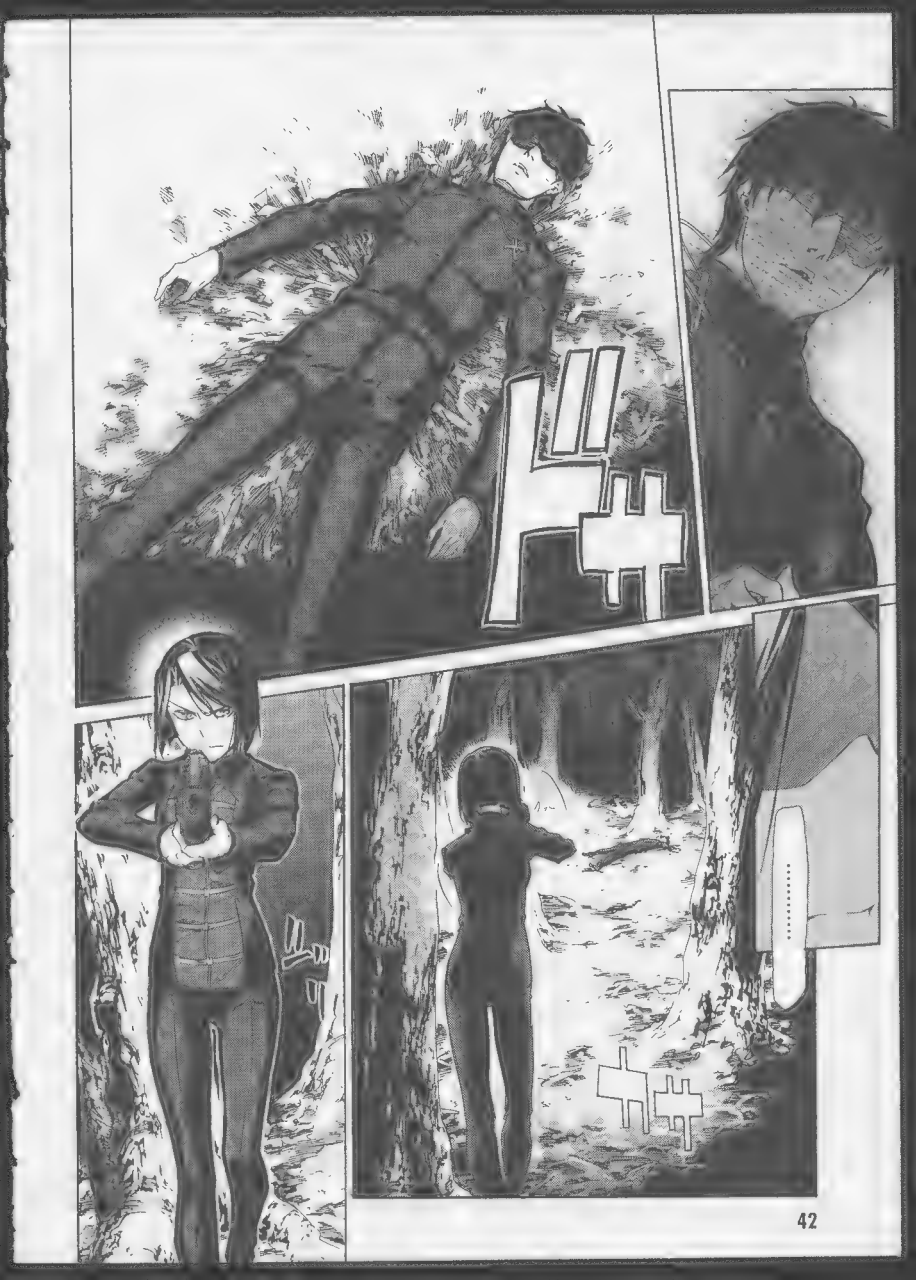
しかもマスターは籠城の構えで騎士は不在

衛宮切嗣がアインツベルンの番犬を務めているのだとすれば無防備なマスターを護衛しているに違いない

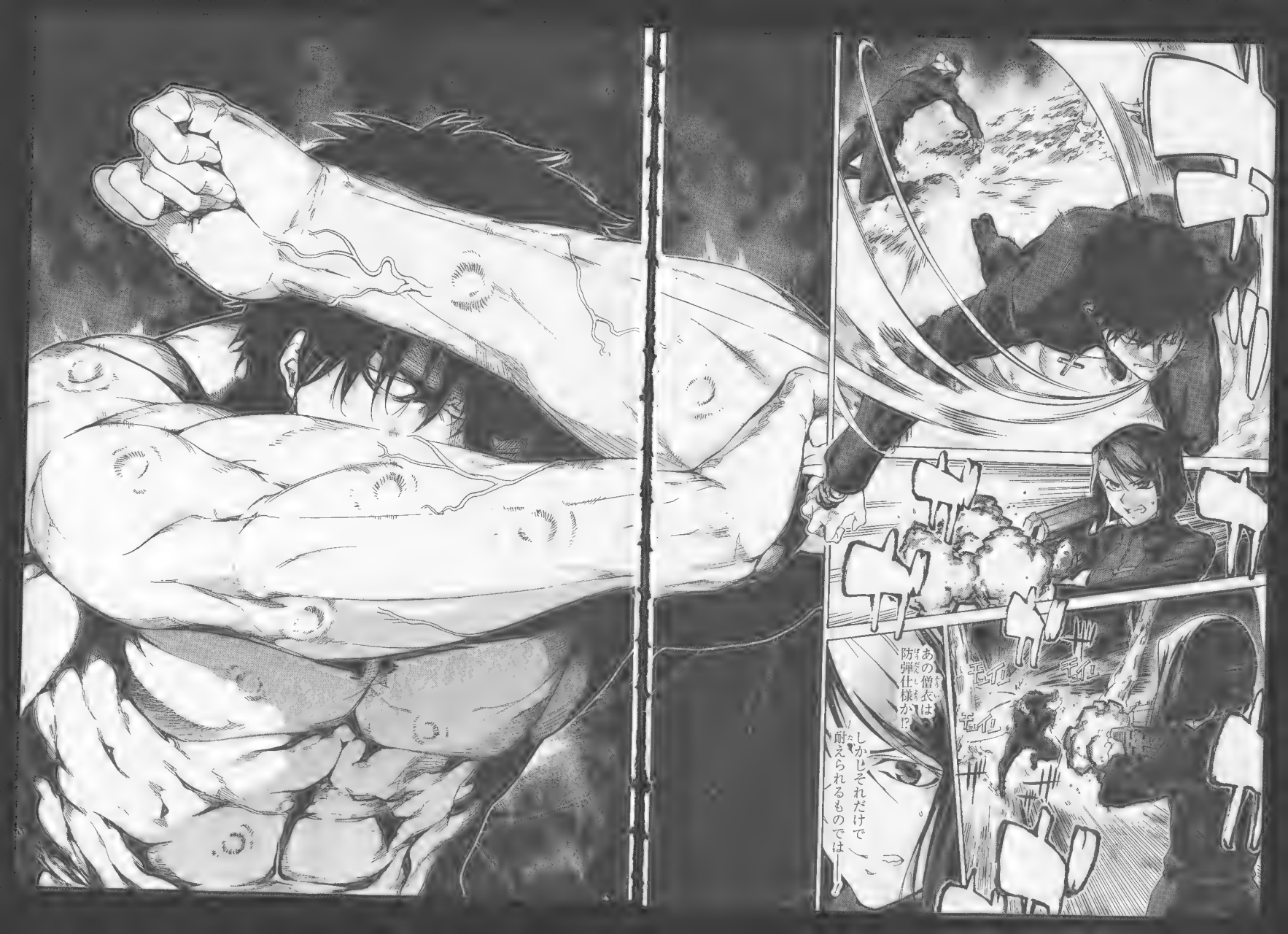
今こそ好機!!

銃声の質から
察するに
口径九ミリ以下の
知機関銃か
森の中では木の幹を
貫通できない拳銃弾は
それほど脅威ではない
……む？

敵は単独
多人数ならば
初撃に十字砲火で
確実に仕留め
ようとしたはず
さては幻覚？
森の結界か



!?
――舞弥さん
駄目ッ！
ぐっ


あの僧衣は防弾仕様か!?
しかしそれだけで耐えられるものでは―!
モォ!
モォ!
モォ!

防弾衣に使用される
ケブラー繊維は刃物に
よる刺突には弱い
ならば！

黒鍵は投擲に特化していて
あの短い柄は近接戦に不向き
大型ナイフの方が
機敏さの点で
圧倒的に有利だ！
いける!!

この動きは中国拳法
八極拳の——

六大開・頂肘!!
ろくだいかい ちょうちゅう

カ……ハッ…！
ミッ
ヒュー
ヒュー
コキ

お待ちなさい!!
――バカな!
アインツベルンは
魔術戦闘の不得手故に
衛宮切嗣を頼ったのでは
この女はあらゆる
犠牲を払ってでも
逃走させるべき
キングの駒のはず

マダム
いけない！
身を隠して
掩護に徹すると……
貴方に死なれては
切嗣が――！
――女よ
意外に思うかもしれんが
私はおまえを倒す目的で
ここにいるわけではない
解っていますとも
言峰綺礼
……
何だと
……？
あなたの目的は
知っている
しかしあなたが
衛宮切嗣にまで
辿りつく
ことはない
私たちがここで
阻みます！
マダム
この男は代行者――
魔術師狩りの達人！
ただの魔術でどうこう
できる相手じゃない！

私が切嗣から教わったのは車の運転ばかりじゃなくてよ？
アインツベルンは戦闘ができないとでも侮っているんでしょうね
でもそれは半分誤りよ
私は切嗣から学んだ
人形ではない自分の生きざまを
泣いて笑って喜びと怒りを生命で謳う——
〝生きる〟という言葉の意味
形骸よ、生命を宿せ
Shape ist leben!

そうして私は
手に入れた――

〝戦って生き延びる〟
という決意を!!

それッ！

ぬッ!?
……ふん
甘いわよ！

ギュルル
ビン
ギュル
ギュル
ギュル

ぬぅ……！
……舞弥…さん
…今のうちに…！
まさに鋼の肉体……
締め潰すはずが
逆に断ち切られそう
全力で魔力を注ぎ込んで
強化しているというのに！
…くっ……
頭さえ撃てば……

そんな――
ベキベキ
ミシミシ

術を破られた
フィードバックが……
「「……」」
なんて
化け物が……
……これが……

これが異端討伐の修羅
元代行者
言峰綺礼の実力

第22話／END

—130:32:40

もう二
は斬ったぞ……
ここまで坍が
あかんとなると
呆れるのを
通り越して驚きだな
あの魔導書だ
ランサー
奴の宝具がある限り
この戦局は変えられない

第23話

成る程な
そういうことか
だがあの
青瓢箪の手から本を
叩き落とすには——
まずこの雑魚どもの壁を
突破するしかないわけだ
……ランサー
この辺りで一か八か
賭けに出る気は？
ドン
根負けするようで癪だが
このまま雑魚とばかり
遊んでいるのも芸がない
——良いだろう
乗ったぞセイバー

私が道を開く
一度きりのチャンスだ
ランサー風を踏んで走れるか？
フフン
なるほど造作もない
何をぼそぼそ囁いているのです？
さては末期の祈りですかな？
さあ恐怖なさい絶望なさい！
武功の程度だけで覆せる数の差には限度がある
ウフフ屈辱的でしょう？
栄えもなければ誉れもない魍魎たちに押し潰され窒息して果てるのです！
英雄にとってこれほどの恥はありますまい！

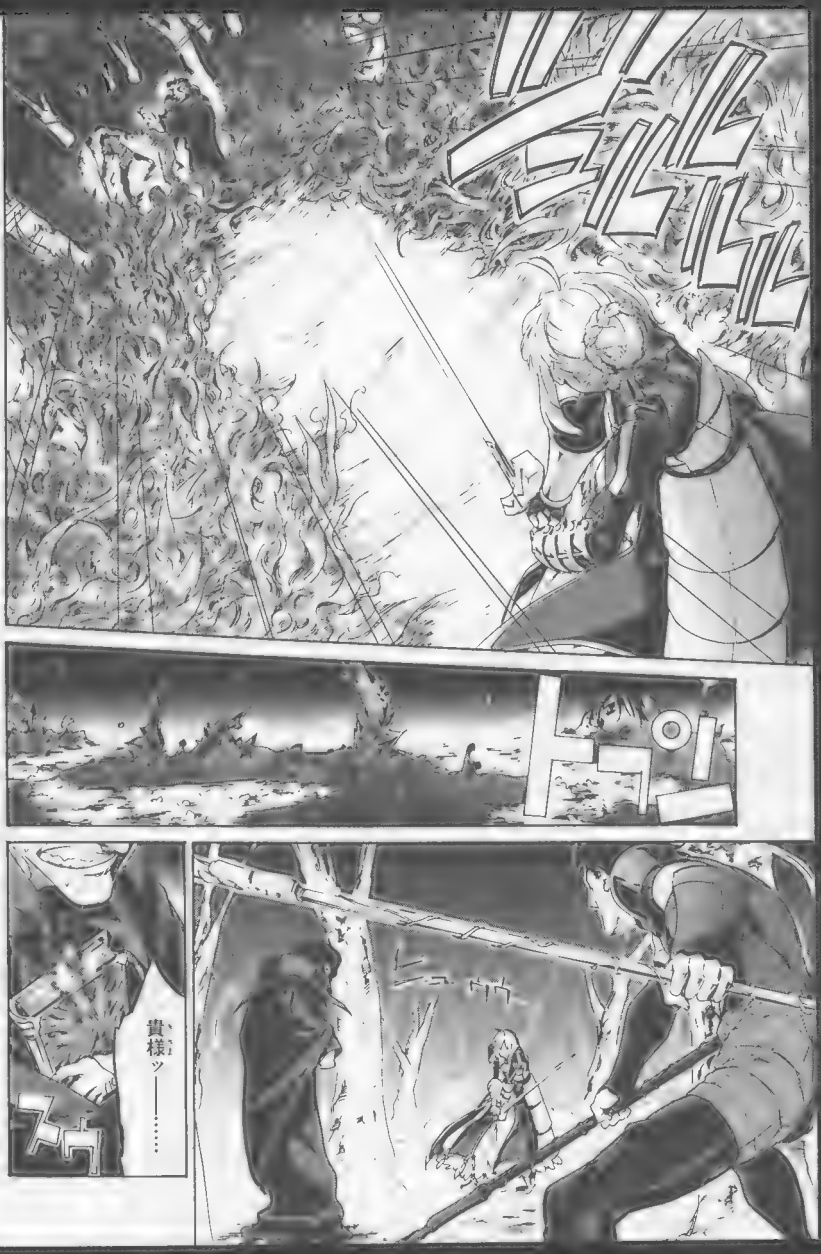
ウフッ！
その麗しき顔を
今こそ悲痛に
歪ませておくれ
ジャンヌ！

風王鉄槌(ストライク・エア)!!

空気塊の背後に生じた
負圧を利用して加速！
な――あッ!!

ビキキッ
覚悟
ひいいッ！

抉れ『破魔の紅薔薇』ッ!!

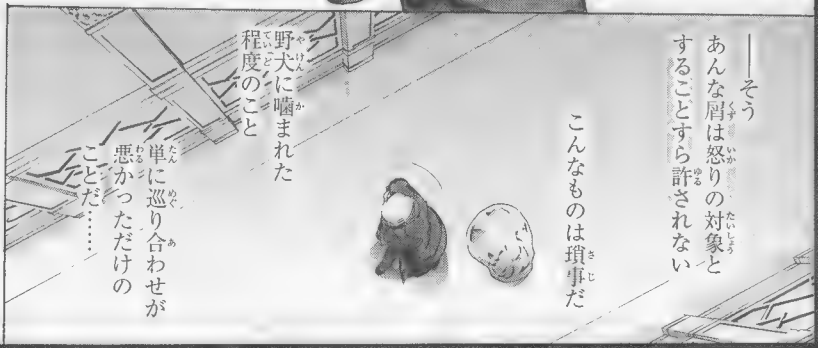

ヒュルルル
ドン
貴様ッ――……

キサマ貴様キサマ貴様
キサマキサマ
キサマァァァッ!!
フッ
……
セイバーに〝左手〟が
戻ればざっとこんな
ものというわけだ
……覚悟は
いいな 外道

これが魔術師同士の戦いだと？

あんなものを戦いと呼んではならない

私はあのようなゴミと戦うためにこんな極東の僻地にまでやって来たわけではない



——そう

あんな屑は怒りの対象とすることすら許されない

こんなものは瑣事だ

野犬に噛まれた程度のこと

単に巡り合わせが悪かっただけのことだ……

……
有り得ないッ!!

あのような
下賤のクズが
私の血を流すなど……
有り得ぬ!!
有っていい
わけがないッ!!
私の礼装はこんな
馬鹿げた戯れ事に
使われるべき
ものではない
ガンドを受け止め
霊刀を弾き
魔術の炎を氷を雷撃を
突破するべき武装だ
私に仇なす魔術師を
驚嘆させ畏敬とともに
死に至らしめるべき
秘術であったはずだ!

なのに今の有様はどうだ？
白慢の礼装を発揮して追い立てる相手は名も知らぬネズミが二匹……
ヒュルルル
そこか
あのネズミが私に一矢を報いたのは駆け引きでも奇策でも何でもない
ただの不条理という名の偶然なのだその違いを解らせてやる必要がある
馬鹿めが……

まさか先と同じ手が通じるなどと思ってはいるまいな？
下衆めが楽には殺さぬ
肺と心臓だけを治癒で再生してやりながら爪先からじっくり切り刻んでやる
距離二〇メートル弱
廊下の幅は六メートル余り
遮蔽物なし
退路なし

悔やみながら
苦しみながら
絶望しながら
死んでいけ
そして死にながら
呪うがいい
貴様の雇い主の
臆病ぶりを……
聖杯戦争を導めた
アインツベルンの
マスターをなァ！
あの水銀が致命的な
スピードと威力を発揮する
ようになるのは七五メートルより
内側と見当らっていいだろう
滾れ、我が血潮
Fervor, mei sanguis!

より硬く！
より細く！
より強靱に！

ゴゴゴ

第23話／END

第 24 話

悪足掻きをッ！
ポコ
ポコ
弾けよ！
く……
魔力で血液を
生じさせたのか

キャスターの気配が
急速に遠ざかっていく……
霊体化して逃げたか
おのれ……
どこまでも卑劣な奴

ヒュウ
サアアア…
ランサー
どうかしたのか？
我が主が危機に
瀕している……
どうやら俺を残して
そちらの本丸に
斬り込んだらしい

結局……すべて切嗣の思惑通りに運んだわけか
きっと私のマスターの仕業だ
……ランサー急ぐがいい
己が主の救援に向かえ
騎士王……
赤い
良い
我ら二人は騎士としての決着を誓ったのだ

共にその誓いを貫こう

早いですね
手先は器用な方だからね
こういう単純な道具の修理は得意なんだ
でも僕が精密機械を直そうとすると逆に壊れてしまうんだよ
……
何故ですか？
モノを〝修復〟すると言っても
一旦断ち切られてから結び合わされた糸は結び目の部分の太さが変わるだろう？
つまり〝切って繋ぐ〟という行為は対象に不可逆の変質をもたらす
それが僕の魂の本質——
〝起源〟だ

良い機会だ
舞弥にも教えておこう
この弾丸で撃たれた対象には僕の“起源”が具現化する
これは特に魔術師にとって致命的だ
……
これが僕の礼装
芯材には僕の脇腹から摘出され霊的加工を施された肋骨の粉末が使用されている
銃は直せても電子回路は直せない
この性質は僕の人格よりももっと深い部分に根ざしている
僕の起源は『切断』と『結合』
だから父は僕を切嗣と名付けた

緻密な電気回路に
水滴が落ちると
回線短絡で電流が
回路そのものを破壊し
完全に故障させてしまう
魔術回路でも
同様の現象が起きる
こいつに魔術で干渉すると
その影響は術者に
フィードバックされ
魔術回路を滅茶苦茶に
組み換える
結果 魔力が暴走を起こし
回路をショートさせる
そのダメージは
術者が操っていた
魔力量に比例して
神経系や内臓にまで及び
何もかもズタズタにする
一発一殺――
こいつに撃たれて
生き延びた魔術師は
今のところゼロだ

なぜ30-06スプリングフィールド弾を選んだのです？
装甲車ぐらい持ってこないと貫通を防げない弾種だからさ
——魔術にでも頼らない限りね
ガク
コポ
ガク
ガク
ビク

ビクン
ッ!?
…ッ!?

ガキン
挑発のおかげで
ケイネスはあの時
全力で魔力を水銀に
注ぎ込んでいた
タイミングは完璧だったな
ビシッ
ガクガク
ビシッ
バッ
ビシッ
ビシッ
ビシ